

「いざ、なかのしま！ BooksPRO会議 夏の陣」開催

出版情報登録センター(JPRO)説明会

7月6日出版情報登録センター(JPRO)説明会「いざ、なかのしま！BooksPRO会議 夏の陣」として大阪市中央公会堂大集会室にて、日本出版インフラセンター・日本書籍出版協会・日本書店商業組合連合会近畿ブロック会の共催で開催した。

当日朝まで不安視されていた台風5号が温帯低気圧になり、快晴のうちに、取次・出版社・書店が300人を超えて参加し、熱心に説明会に聞き入り、成功裡に閉幕をした。

冒頭、主催者を代表して日本出版インフラセンター相賀昌弘代表理事(小学館会長)から、2002年に日本出版データセンター(JPDC)設立、2009年日本出版インフラセンターとして社団法人の経緯と目的を次のように説明した。発起人として、取次・日書連・書協・雑協でスタートし、参加出版社は4、500社のデータで始まったが、現在2400社となり、近々2500社になるだろうとした。「出版社や書店の使っている人の話を聞いて、使っているデータ・デメリットを感じて自分ならどうしたいかの点がありましたが、現在よりも、より良いものに、新しいものを付け加え、また皆様からこれはなんでもというものがありましたら、削っていきます。一見して無駄とも思えることも将来有用



相賀代表理事



深田理事長

となることもあり。現在無駄と思われることの将来の効用がありますので、捨てないようにしています。

「アクセスブル・ブック・サポート(視覚障害者により本を読むのが困難な人のための支援)の出版情報もJPROに来ています。このような情報も充実していきます」とし、「皆様のご意見を聞き納得して帰りたい」と挨拶をした。

深田健治日書連近畿ブロック会長・大阪組合理事長(ブックスふかだ)から、「書店の立場から言わせてもらうと、書店の店頭は極めて厳しい状況です。一昨年来のコロナ禍の巣ごもり需要と言われて家で本を読むことや一部の非常なヒット商品があったお陰で一時書店店頭もよいかなどという時期もありました。今はウ

イズコロナということ、町に人が戻っていませんが、書店の店頭は非常に厳しい状況です。確かに来客数は減っていますが、何とか電話での問い合わせが多いと聞きます。お客様では書店が知らない情報をもっておられ、書籍・雑誌・コミックのことも逆に教えて頂く事があります。その本がいつ発売で、どれほど配本されるのかが、この段階で分からず返事ができない。書店に足を運んで何かを探すと、よりよい本があるのかもしれない。重要な、あるいは良いというお客様がふえている。

書店人は来ていただいで、棚から選んでいただくために品揃えをして、売れる数を予測して、注文や仕入れをやっていききたいと思っています。

お客様からお問い合わせのあった情報が書店には分らないというのは、困った話です。色んな情報をお客様に出版社様からの情報をうまく提供できるようにBooksPROというシステムを利用していただきたいと思えます。出版社さんや取次さんからの情報を共有していきながら、頑張っ

ていきたいと思えます」として販売促進の役立てていただきたいと挨拶をした。

◆◆◆

田中敏隆JPRO管理委員長から設立以来の経過、勝野聡JPROセンター長からBooksPROの活用について説明し、奈良組合の庫本善夫理事(庫書店)から、書店現場での情報の必要性とBooksPROを有効活用するために、どんどん使いたしようとの意見があった。日本で2番目に古い出版社と自称されている京都の法蔵館(ネット上では一番古い出版社と紹介)編集部の池澤智之さんから新刊だけでなく、書庫に残っている本のデータ化を進めている現状を説明した。

兵庫組合の森忠延理事長(井戸書店)、奈良の出版社中敏隆氏、勝野聡氏のトークイベント「書店と出版社の疑問に答えます」を執り行った。

森理事長から書店が注文をする際に重版・何刷りの情報を入れてほしいとの意見があったが、出版社側では開示が難しいとの回答があった。

また白石社長からは、日本で初めて英国の国民作家のチャールズ・ディケンズ個人全集12巻の刊行を始め、全国の読者から反響があったことから、刊行の情報を発信していきたいと語った。

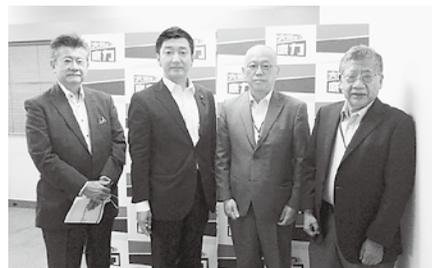
閉会のあいさつは書協専務理事の樋口清一氏からあり、有意義な2時間弱の会合であった。

「全国の書店を支える議員連盟」に協力を依頼 柳本衆議院議員に加盟を申し入れ

町の書店減少をとどめるため、かねて読み聞かせなど読書推進を主として活動してきた出版文化振興財団(JPIC:理事長近藤敏貴トーハン社長)が業界課題解決のため業界横断型の組織に改編したことから、日書連ではJPICとともに、政治力が必要として自民党の「全国の書店を支える議員連盟」(略称書店議連 会長塩谷立衆議院議員)の会合に参加し協力を依頼した。

活字文化文化議員連盟(会長細田博之衆議院議員)は超党派の組織であったことから、政府への陳情には限界があったため、より政治の中心である自民党に働きかけることが重要と認識、書店議連に出席した。

これを受けて、大阪府書店商業組合深田健治理事長(ブックスふかだ)は7月16日自民党近畿ブロック選出の柳本頭衆議院議員を大阪市西成区の事務所へ、富士原純一常務理事(富士原文真堂)、法西一雄南西支部長(フミヤ書店)と共に訪問、書店議連加盟を申し入れた。柳本衆議院議員は、週明けに書店議員連盟に加盟の条件等を問い合わせると約束を得、週明け火曜日19日午前中に、本日付で書店議連加入手続きを済ませたと柳本先生から直接に連絡があった。



「週刊ポスト」女性セブンの定期取置数について

基準号の正確な申告を お願いいたします

皆様にご参加いただきました小学館の週刊ポストと女性セブンの販売・取置に對する1回目の報奨金総額809,672円を5月25日に組合費との清算と振り込みで実施することができました。

新しく令和4年度前期(令和4年8月1日〜令和5年1月31日)が始まりました。

同時に、7月最終発売号にて令和3年度後期分の褒賞金確定基準日となります。必ず各店で定期・取置数の正確な申告をお願いいたします。取次の送品数と

返品数を突き合わせをいたします。台帳数ではないことをご理解ください。定期・取置数は取次からの送品数と返品数の差のデータ以下の数字となります。

定期台帳での数は見込み数となり、取次からの送品数と返品数の差との乖離が発生する元となります。処理上数字の突き合わせ作業が煩雑となります。事務局の作業が滞る原因となる恐れも、基準日です。くれぐれも、基準日です。定した定期・取置数の申告をお願いいたします。

◆注意していただきたいのは、この契約は自動更新ではないことです。ご参加を希望される組合員様は、毎回申し込みの手続きをお願いいたします。新規のご参加をご希望される方も同様に「組合だより102号」に同封いたしておきます。申込書にご記入の上、FAXか同封封筒にてご回答をお願いいたします。

今回の週刊ポストと女性セブンの基準とする発売日と号数は次の通りです。

基準号数・発売日
週刊ポスト 8/5・12
合併号:7月25日発売
女性セブン 8/11号:7月28日発売

申し込み期間は、女性セブンの7月最終発売日の7月28日から、締め切りは8月16日お盆休み明けまでです。